

緑窓

RYOKUSOUKAI



青山学院中等部緑窓会会報

2019年5月1日発行

青山学院中等部緑窓会 発行人 伊藤 正道

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL / FAX : 03-3498-5387

E-mail : ryokusoukai@ceres.ocn.ne.jp

ホームページ : http://www.ryokusou.net/

中等部新礼拝堂、完成へ

～新礼拝堂への思い、未来の中等部に向かって～

山本与志春青山学院院長 敷島洋一中等部部長 伊藤正道緑窓会会長 座談会

2015年12月に募集が開始された「中等部新礼拝堂指定寄付」は今年3月に終了し、大勢の方々のご協力によりパイプオルガンが設置されることになりました。新礼拝堂は1月8日(火)に献堂式が行われ、毎日生徒たちの礼拝が守られています。待望のパイプオルガンはドイツで製作され、6月中旬から新礼拝堂での工事が始まり8月下旬には完成予定です。

9日にはパイプオルガンの美しい音色と、生徒たちの讃美の声が新礼拝堂に響き渡ることでしよう。

(伊藤) 1月8日の新礼拝堂献堂式に参列させていただきましたが、すばらしい礼拝堂ができましたね。我々15期の時代は桜並木の構内に鰻の寝床のような校舎があり、礼拝は農大の講堂で行われていました。この50年は青学講堂(以下青講)での礼拝でしたが、今回、中等部として初めて礼拝堂を持ったことになり、院長として、学院全体としてその意義をどのようにお考えでしょうか。

(山本) 院長としてというよりも、元々中等部の教員で部長でしたから、中等部が以前から自分たちの身の丈に合った礼拝堂を持ちたいというのは念願でした。それが叶えられ、非常に感慨深いですね。

(伊藤) 敷島部長はいかがでしょう。生徒たちにとって礼拝は生活の中心ですし、青山学院(以下青学)にとっても一番重要なことだと思いますが。

(敷島) そうですね。青講もすばらしいのですが、今まで「ここが自分たちの場所なんだ」という所がなかったので、初めて自前の礼拝堂が持てるというのは有難いことだと思いますね。今回、礼拝堂ができて、生徒たちが礼拝堂にすーっと入って来るんですね。注意されなくて座るんです。見上げると十字架があるでしょ。やっぱり落ち着くんですよ。以前はおしゃべりしている子を座らせるのが担任の仕事で、その仕事がすごく軽減されました。教職員もできれば一緒に話を聞きたい、礼拝をしたい訳ですから、それができたのは本当に有難いですね。生徒たちにとっても礼拝堂は叱られる場所ではないですから。

(山本) それは大事なことです。嬉しいですね。

(伊藤) 緑窓会も1年に1度は中等部に帰ってきて礼拝を守ろうと「緑窓会の日」を開催していますが、その中心である礼拝は青講で行われていたのです。

(山本) 青講は立派でよかったのですがサイズが大きすぎましたね。800人の生徒に対しては1600人以上入る講堂ですから、讃美の声もかなり出しても響かなかったですね。

(敷島) 今回は響きがいいですね。これでパイプオルガンが入ったらすばらしいと思います。

(伊藤) パイプオルガンも院長が中等部にいらした時の計画ですか。

(山本) パイプオルガンを入れることを認めるというお話はいただいたんです。非常に大きな決断をしていただきました。方針は認められたのですが、予算は付けていただけなくて。そういう意味では敷島部長が大変苦労されたと思います。

(伊藤) 現実にはどのように寄付を募集されたのですか。

(敷島) これは緑窓会の方々で最初の趣意書を作るところから始まりました。本当に可能なのか、夢は高く掲げようと思っても実現するのは難しいという気持ちもあったかもしれませんが。

(山本) パイプオルガンを入れたいという願いは緑窓会の方々から何度も伺っていましたし、中等部の中でもそういう声はずっとあったんです。礼拝堂とパイプオルガンをセットで希望したので、両方叶えられたというのがとても嬉しい。有難いです。

(敷島) 短期間でよく実現しました。学院関係者の方々、もちろん緑窓会、校友の方々も本当に協力してくださいました。とても有難かったです。あと生徒たちも。中等部を卒業した高二の子が、多分お年玉なんだろうね、1月に何人も寄付してくれたり、中等部から他校に進学した子も寄付してくれました。本当に青学が大好きなんですね。そういう子たちがいて、とても嬉しかったです。

(山本) いい話ですね。そういう皆さんの思いがこもっている新礼拝堂にぜひお呼びしたいですね。

(伊藤) それについてはどのようなお考えをお持ちですか。寄付に対する感謝も含めて。

(敷島) 寄付をしてくださった方々には定期的にパイプオルガンコンサートを年に何回か開いて、それに来ていただくのがよいかなと思っています。礼拝堂の響きを楽しんでもらうためには、オルガンだけでなくハンドベルや聖歌隊のコンサートもあるでしょう。寄付してくださった方だけでなく卒業生にも来てもらう。思い出の校舎が無くなって縁が切れたような思いをされているかもしれませんが、来ていただいて、いい意味で驚いていただくことができればと思っています。時期としてクリスマスやイースターなどキリスト教にちなんだ時にできるといいですね。





山本院長

(山本) オルガン奏者は卒業生に大勢いらっしゃるし、新しい中等部のパイプオルガンを演奏したいという思いもあるでしょう。ハンドベルや聖歌隊などの楽しいコンサートにも有効に活用されるといいですね。

(伊藤) 生徒にもいい場になりますね。我々もそうですが、「青山愛」のようなものを持つ人がほとんどだと思うのです。校舎や礼拝が変わっても自分たちが寄付したものがどうなっているのかとの思いもあるし、「青山愛」の中で、時には中等部に足を向けたいというきっかけにもなるのではないのでしょうか。

(山本) 礼拝堂はずいぶん変わりましたが、十字架は青講から移設した小坂圭二先生が作られた十字架です。25期以降の方たちは思い出深い十字架と提供いただけていたのではないのでしょうか。

(伊藤) ステンドグラスも校友の方のデザインですね。

(敷島) 32期の堀川理万子さんにお願いました。やはりステンドグラスもあって良かったですね。パイプオルガンが入れば更にすばらしくなり、もっと居たいと思うような空間になりますね。

(山本) 落ち着くんですね。礼拝堂の規模がコンパクトになっていて、お話をする時、皆の顔が見えます。後ろの方の人たちの顔もよく見えるので、一体感があります。自分がどこかに隠れてしまうということがないんです。

(伊藤) それは礼拝堂として一番大事なことです。待望のパイプオルガンの設置工事は、今年の6月からですが。

(敷島) 6月半ば頃からですね。8月24日引き渡し予定です。中等部は2学期からパイプオルガンを使って礼拝をします。12月には校舎落成式を考えています。緑窓会の期幹事の方々にもぜひおいでいただきたいと思っています。

(伊藤) 最後に、中等部は新校舎、新礼拝堂が完成し、2021年には75周年を迎えようとしています。「未来の中等部」に向けてのお考えをお話いただきたいと思います。

(敷島) 世界が本当に変わってきています。ITや人工知能が大きく進化する、人間の寿命が伸びるなど、あれこれ大きく変わる中で、教育が変わらないということはあり得ません。もちろん基礎学力というのは共通でしょう。この中等部の教科センター方式という新しい校舎は、個別の学習も、全体の共同学習も自由度がききます。教室のすぐ隣にメディアスペースがあり、教科の先生たちの部屋もあり、様々なIT機器も完備しています。ある意味で大きな実験ができる。これからどういうものが必要なのか、それは教師が用意する実験ではなくて、生徒たちがチャレンジするのです。これからの創る若い子たちが面白いと思うものを一所懸命、切磋琢磨していろいろとやっていく学校、その器みみたいなものを与えられたと思っています。そういう意味では青山らしく自由な発想で、もっと明るく生き生きするといいと思います。今の卒業生、大学生や社会人になった人々を見ると、やっぱり青山らしく嬉しそうです。そして立派に成長しています。これからはすばらしい生徒が育つだろうなと思っています。



敷島部長

(山本) 中等部の校舎を建てる時に一つのコンセプトだったのが、「問い続ける学びの場」です。アクティブに何か新しいもの、未知なるものを探し求めるとか、真理を探し求めるものであってほしい。そこは出会いの場であってほしいと思います。いろいろ

な学年の生徒や先生方と出会う空間、教科のフロアだから混ざるんです。学年フロアではないので、いろいろな出会いが生まれてくる。ぶつかり合いもあるでしょう。でも、そのぶつかり合いが一番大切な学び、どう生きていくのかということに訓練する場になっていくのだと思います。グローバルな時代になり、人と人とのコミュニケーションがさらに重要になります。異なる者同士が共同で生きていく、お互いが支え合って生きていくすべを探し出さなくてはならない。主義も主張も習慣も違う人たちが共に成長して幸せになるための道を探し出さなくてはならない。そのようなものを作り出すシステムや、形を作ることができる人たちが青学の中から出てくることを望みますね。そういう意味では「ノーベル平和賞」のようなものをもらえるような方が出てきたら有難いなと思います。「自分の力を他の人のために使うことを喜びとする人」を育てていきたいですね。これからAIが進化しても人は変わらない。心の問題に丁寧に向き合っていけないと幸せになれない。どんなに物が豊かになって便利になっても、人の

心が満たされなければ、幸せになれないとしたら、教育の中でお互いがどうしたら仲良くしていけるかを学ぶことが、とても大事になっていくだろうと思っています。中等部の学びのスタイルが、子供たちを育てていくのに有効であるように、礼拝堂もその一つであるようにと願っています。



伊藤会長

＊寄付の御礼＊

中等部新礼拝堂募金委員会委員長 崎田 克己

ご寄付をいただきました保護者、教職員、卒業生、ほか全ての皆様に心からの感謝と御礼を申し上げます。すでに献堂を終えた850名収容の中等部新礼拝堂では、いよいよこの9月、懐かしい十字架とステンドグラスを正面に挟んだドイツフイムズ社製パイプオルガンの設置が完了し、全ての関係者が心待ちにした生徒達が敵かな礼拝を守る環境が整います。皆様にもご臨場いただきたく、これから予定される諸行事の折にはぜひお出かけください。

第30回「緑窓会の日」

実行委員長 高橋 知也(30期) 副委員長 林田 香緒里(30期)



今年のテーマは「音楽とスポーツで語る青山学院、そして世界へ」

6月1日(土)13時より開催の「緑窓会の日」(企画担当30期)は、中等部校舎見学(希望者のみ)と新礼拝堂での川村牧師(30期)による礼拝から始まります。今年はラグビーW杯が間近に迫り、翌年は東京五輪という日本の存在感が改めて世界に発信される記念すべき年に当たります。AOYAMA VISIONにあるようなサーバントリーダーにふさわしい世界的な活躍をされている方々の中から、チェロ奏者山本祐ノ介さん(30期)ご夫妻による演奏と、山本さんの世界での活動と青山学院との関係性を語っていただきます。後半の部では、青学のラグビー関係者が集結し青学とラグビーの深遠をさぐり、ラグビーW杯の最新情報や裏話等ラグビーイヤーに相応しいスポーツトークライブを開催します。今回の「緑窓会の日」に足をお運びいただき楽しい1日をお過ごしいただければ幸いです。

テレビ朝日でテレビドラマのプロデューサーをしている神田さん。今までに、「警視庁捜査一課9係」、「特捜9」、「重要参考人探偵」、「僕の初恋をキミに捧ぐ」などの作品を手掛けました。

…プロデューサーとは具体的にどのようなお仕事ですか。

プロデューサーって分かりにくいですよね(笑)。私の仕事は、テレビという身近なメディアで何を見てもらうか、今の人達に何を伝えられるか、今何が面白いかなどを考えながらドラマの企画をたてる所からスタートします。その上で、どのようなキャストやクリエイターに集まってもらえれば形にできるのかを考えていきます。どんな脚本家にシナリオを書いていただく？監督は？俳優さんは？音楽は？など、いろいろな方々をイメージして、実際にお願ひしに行き、撮影して、放送して、更には配信やDVD化などの作業もします。番組の誕生から最後の展開まで担当しています。

…小さい時からやってみたいお仕事だったのですか。

やってみたかったですね。小さい時から物語を作るのが好きで、中等部の時には、授業中にこっそり小説みたいなものを書いたりしました(笑)。中等部の頃を振り返ると、子供でもなく、大人でもないからいろいろなことに葛藤があった3年間かなと思います。今、人間ドラマを描く時にその時に悩んだこととか感じたことが、物語の登場人物の心の動きを作るときに凄く役立っていると思います。

…中等部の思い出を聞かせてください。

3年生の時の文化祭をよく覚えています。皆がお化け屋敷とかをやっているのに、私は自分達と同じ年位の子供たちが、世界ではどうしているか、貧困問題に興味があって、これをやりたいと先生にお願ひに行きました。先生方はいいよ、とチャンスをごささって、体育館の一部を借りて「世界の子供たち」のような展示をやらせてもらいました。真面目な展示でも見に来てくださる方々がいらして、それも嬉しかったです。中学生ってたぶん、とても多感な時期だからこそだと思っておりますが、いじめられたというか「独りぼっち」だったなという記憶もあります。例えば、授業でグループやペアを作ることがありましたが、独りぼっちの私を入れてくれるグループは無くても、私は「先生、誰も私と組んでくれないので一人でやります」と宣言するような子供でした。今思えば、私が割とわが道を行くタイプだったので、クラスメイトは敬遠していたのかもしれませんが(笑)。親しい友人がいなかった事もあり、修学旅行にも行けなかったのですが、「神田さんが来なくて残念だったよ」とある先生が声を掛けてくださったことがとても記憶に残っています。気にしてくれていた人がいたのだ、という発見もありました。それに、独りぼっちだった経験も、今となってはドラマを作る際の登場人物の気持ちを考えたり、シーンを作ったりする際に役立っていると思います。自分が経験した事というのは、リアルだからこそ特別なものだと思いますし、人生を豊かにしてくれるものだと感じています。

…神田さんのこれからのテーマは。

最近の私自身のテーマは、「多様性への寛容性」です。一人として自分と同じ人はいない。世界には自分と異なる価値観、文化の人が住んでいます。人は皆違うものだからこそ面白いと思うので。いろんな人がいていいんだ、という意味でも「多様性」というのが凄く大切だと思っています。皆が一緒である必要はないですし、多様であることを否定する社会になってはいけないと思うのです。「いろいろな人、いろいろな価値観、いろいろな生き方」があることをお互いに認め合って、自分と違う意見の人のことも受け入れる「寛容さ」がとても大事なことです。それが無い社会は生きていく心地が悪いと思うんです。だからこそドラマの中で「いろいろな人たち」を描きたいという思いもあります。

…これからの夢は。

まだまだ創りたいドラマが一杯あるので、それを形にできるようになりたいです。ドラマを見て、スッキリしたり、泣いたり、キュンとしたり、日常の疑似体験をして、見る人の心が動く瞬間を作り出していきたいです。

【インタビュー 濱中浩子(20期) 佐藤木乃実(27期)】



経験は人生を豊かにしてくれる

神田エミイ亜希子さんプロフィール
青山学院初等部、中等部、高等部を経て、上智大学外国語学部卒。東京藝術大学大学院映像研究科修了。テレビ朝日入社後、アニメ番組、「日曜洋画劇場」、編成担当などを経て、現在はドラマのプロデューサーとして番組制作にあたっている。「重要参考人探偵」「特捜9」「僕の初恋をキミに捧ぐ」などをプロデュース。

第30回 「緑窓会の日」～音楽とスポーツで語る青山学院、そして世界へ～

日時 2019年6月1日(土) 13:00～16:30
場所 青山学院中等部新礼拝堂
参加費 3,000円 青山学院在校生は無料

— プログラム —

受付	13:00～13:30	校舎見学(受付終了後希望者のみ)
第1部 礼拝	13:40～14:20	説教 川村尚弘(30期) 駒場工デン教会牧師
第2部 コンサート	14:25～15:10	チェロ 山本祐ノ介(30期)、ピアノ 小山京子
茶話会	15:10～15:40	青山学院中等部カフェテリア
第3部 トークライブ	15:45～16:30	青山学院とラグビー、そしてW杯～世界への飛翔！～ 吉田義人(元明大監督)、山本巧(ラグビー協会理事・30期) 岩淵健輔(7人制ラグビー総監督・42期 VTR出演) 安村直樹(日本テレビアナウンサー・55期 VTR出演) ほか

＜同期会サポート＞

今年も緑窓会では、中等部卒業後10年(61期)、20年(51期)、30年(41期)を対象に同期会をサポートします。6月1日に同期会が行えるように、アイビーホール(青学会館)の予約、案内はがきの作成などをします。これをきっかけに緑窓会の活動に参加されることを期待します。

6月2日(土) 第29回「緑窓会の日」報告

実行委員長 堀川 万由美(29期)



中村健佐さん(29期)

梅雨入り間近の晴天に恵まれ、第29回「緑窓会の日」を、多くの同窓生、緑窓会事務局のお力添えを賜り、無事に開催することができました。

第一部では、恩師真藤純一先生に奏楽をお願いし、駒場エデン教会の川村尚弘牧師(30期)の説教による礼拝を守りました。第二部のテーマは、「197578～あの輝かしい時代を忘れない～」29期が中等部で過ごした1975～78年の映像や音楽などと共に、皆様をあの時代へと誘いました。

舞台の上演は、29期生の俳優、サクソ奏者、作家の他、中等部生やOGのご協力によるもの。ご観覧には、先生、父兄、1期生の方々にもお越しいただき、あらゆる世代が各々のあの時代に思いを馳せて、タイムトリップした時間となりました。

振り返れば、平成最後の「緑窓会の日」となった29回。皆様のお心に、少しでも輝かしく残る日となりましたならば、幸いです。

9月23日(日・祝)「グリーンフェスティバル」 毎年好評の青山珈琲(1イーゴ)と100%愛媛県産フレッシュオレンジジュース(2イーゴ)を販売しました。

10月6日(土)中等部運動会 3学年の優勝クラス(3年生は同点優勝2クラスあり)と男子3,000m走、女子800m走の1、2、3位の選手に緑窓会賞(年号入りマフラータオル)を贈呈しました。

11月10日(土)中等部祭「ジュビリー式典」「緑窓会の部屋」開設 10期(ダイヤモンド)、20期(ゴールデン)、45期(シルバー)の方々を表彰し、記念の盾とマフラータオルを贈呈しました。

11月11日(日)中等部祭「緑窓会の部屋」開設 2018年度よりグランプリに緑窓会賞(年号入りマフラータオル)を贈呈。初代グランプリは「3Aアドベンチャーズ」

2019年1月2日(水)、3日(木)箱根駅伝応援(京浜急行立会川駅付近) 2日は1区橋詰選手、3日は10区鈴木選手を応援。「吉田家」蕎麦店で復路優勝、総合2位をお祝いしました。



グリーンフェスティバル模擬店

中等部便り

2019年度人事

長 敷島 洋一
 頭 浦田 浩
 主任 浅原 一泰
 委員 上野 亮
 委員 関 隆一
 委員 鈴木 知明
 1年 林 謙二
 2年 津村 裕子
 3年 筒井 祥之

[退職] 吉田 明澄 (教諭・国語)
 2014年4月～2019年3月
 関 妃 (教諭・英語)
 2015年4月～2019年3月

[新任] 青野 拓朗 (理科)
 井上 有史 (国語)
 達富 悠介 (国語)
 林 誠 (保健体育)
 水野 祐輔 (社会)
 渡辺 紗穂 (英語)



中等部新校舎

2019年度 緑窓会行事予定

6月1日(土) 第30回「緑窓会の日」・同期会サポート
 9月23日(日・祝)「グリーンフェスティバル」に参加
 10月12日(土) 運動会で緑窓会賞(マフラータオル)を贈呈
 11月9日(土) 中等部祭「ジュビリー記念式典」
 「緑窓会の部屋」開設
 10日(日) 中等部祭「緑窓会の部屋」開設
 中等部祭グランプリに緑窓会賞(マフラータオル)を贈呈
 1月2日(木) 箱根駅伝応援 往路(京浜急行立会川駅付近)
 3日(金) 箱根駅伝応援 復路(同上)

同期会を行いました…

◇28期中等部高等部合同同窓会 2018年9月15日
 記事・椎名良治
 ◇3期中等部高等部合同三期会 2018年10月10日
 ◇1期生の会 2018年10月11日 記事・余語悦子
 ◇5期中等部高等部合同 傘寿の会 2018年10月17日
 記事・野村美恵子

写真・記事の詳細は、緑窓会のホームページ(下記QRコード)をご覧ください。緑窓会では同期会、クラス会を行う時に期幹事を通して名簿と宛名シールを発行しています。会の写真と記事は緑窓会のホームページに掲載することができます。緑窓会室にお送りください。

緑窓会期幹事になって

かわた そう
 河田 壮生(70期)

僕は、緑窓会の70期の代表になれたことを嬉しく思います。卒業しても、70期の仲間との絆を大切にし、心の拠り所となれる様な関係をこれからも築いていければいいと思っています。そして、代々先輩達がつないできた緑窓会期幹事の責務をしっかり果たしたいです。



はやし
 林 はんな(70期)

中等部3年間で得た経験、中等部で出会った先生や友人。多くの人に支えられて中等部3年間に様々な経験をし、様々な出会いがありました。中等部で得た多くの宝物をこれからも大切に守っていき、そして学年幹事として、中等部の絆をいつまでも繋いでいきたいと思います。



訃報

2018年5月 緑窓会前会長、松元茂氏(16期)が永眠されました。
 2018年8月 中等部教諭、渡邊ちおり先生(1996年～2018年奉職)が永眠されました。
 謹んで哀悼の意を表します。

《定例役員会の報告》

2018年5月20日に第1回、2018年12月9日に第2回定例役員会が開催されました。2018年度決算報告については、5月18日役員会承認をもって緑窓会ホームページに掲載します。



会長 伊藤正道 / 副会長 大石由美子・藤野健彦
 会計 小平昌邦・西本由里子 / 監事 今村和久・崎田克己